

水稲育苗箱削減による省力栽培の導入・定着

カーボンニュートラルなお米づくり

活動年次：令和3年～

石狩農業改良普及センター地域第一係

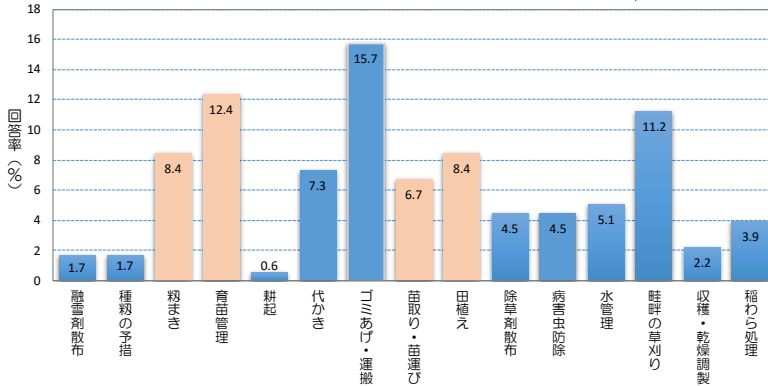
1 課題設定の背景

対象：JA道央水稲生産部会千歳支部会員（12名）

課題：水稲作業の軽減

課題解決方向

解決手法：水稲育苗箱削減栽培



※2017年 石狩管内水稲担当者会議（回答数178件、複数回答あり）

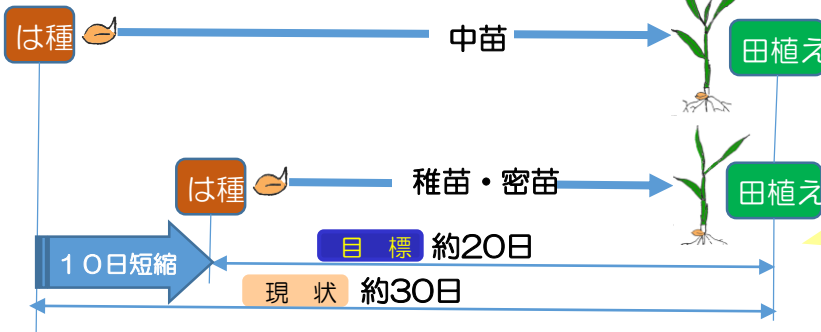
目標

播種作業労力軽減
 育苗管理労力軽減
 移植作業労力軽減
 育苗経費等削減の実現



稚苗・密苗栽培することで課題解決！

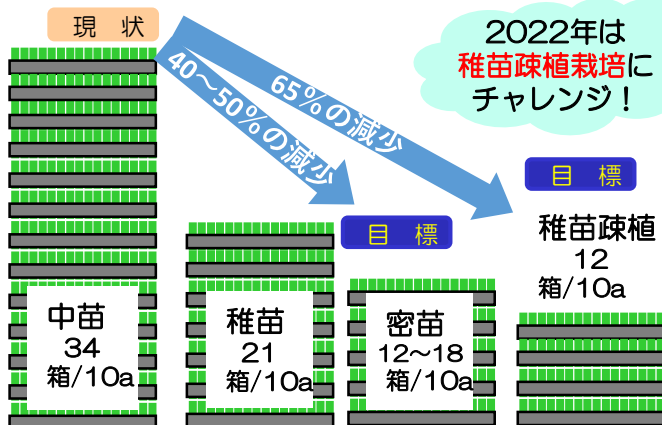
育苗期間短縮!



●育苗管理
 労力軽減

は種から田植えまでの期間が短い！
 ⇒育苗期間が短い

育苗箱削減!



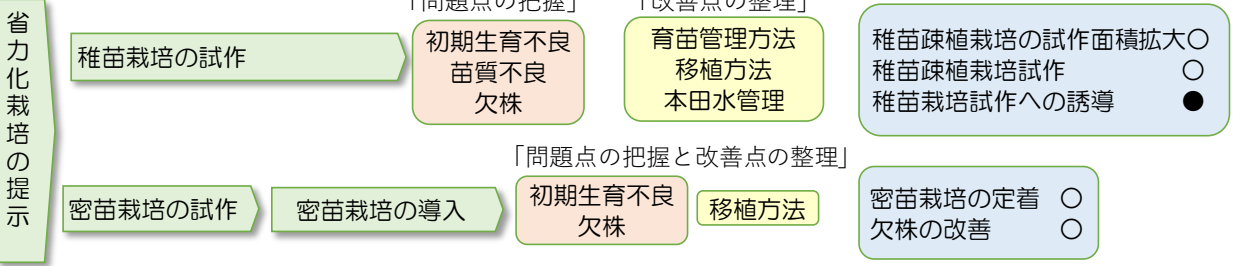
2022年は
 稚苗疎植栽培に
 チャレンジ!

●播種作業・育苗
 管理・移植作業
 労力軽減
 ●育苗経費等削減

育苗箱数が少なく育苗管理作業が短時間⇒労働生産性向上
 苗箱搬出・運搬回数が少ない⇒効率UP、CO2排出量削減
 育苗箱が少ないので農業用資材が少ない⇒経費削減、プラごみ削減

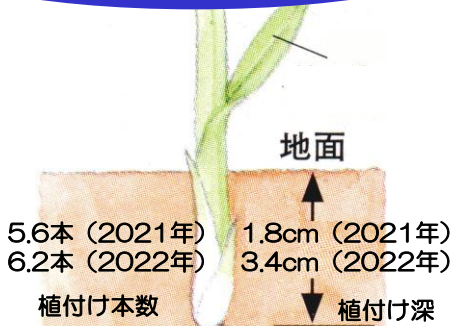
2 活動の経過 *****

【試作への支援】（～2020年）【 2021年 の 取 り 組 み 】 【 2022年 の 取 り 組 み 】



3 活動の成果 *****

密苗栽培の移植方法改善と導入面積拡大

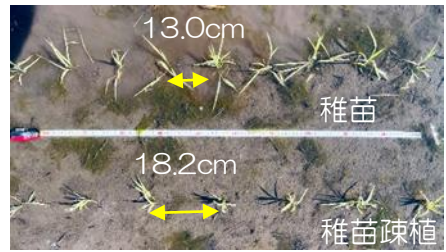


密苗栽培の欠株率減少
10% (2021年)
→1.7% (2022年)

密苗栽培の定着 (面積の拡大)
2.4ha (2021年)
→10.1ha (2022年)

稚苗疎植栽培にチャレンジ!

箱さを減にら育す苗



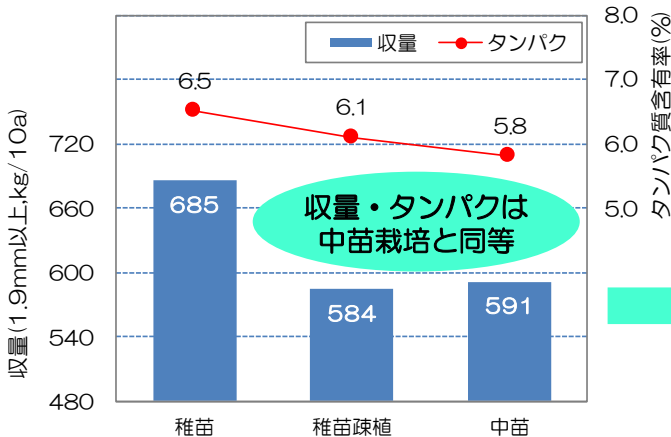
稚苗栽培試作面積の拡大
14a (2021年) →28a (2022年)

稚苗疎植栽培を試作 (株間を拡げる)
株間13.0cm (稚苗)
→18.2cm (稚苗疎植)

稚苗疎植栽培を試作 (箱枚数削減)
10a箱枚数34箱 (中苗箱マット)
→12箱 (稚苗疎植)

稚苗疎植栽培による育苗経費削減
14,042円/10a (中苗箱マット)
5,369円/10a (稚苗疎植)
▲8,673円/10a

稚苗疎植栽培結果



稚苗疎植栽培等の育苗箱削減栽培へ誘導

4 今後の活動 *****

栽培面積の拡大と導入への誘導および他農業者への試作・導入支援